

社会科（歴史的分野）学習指導案

日 時 平成30年6月1日（金）公開授業Ⅱ
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
2年D組40名
会 場 2C2D組教室
授業者 藤村 和弘

1 小単元名 3節 産業の発達と幕府政治の動き（第4章 近世の日本 の最後の小単元）

2 小単元について

（1）生徒観

生徒はこれまでヨーロッパ人の来航が織田・豊臣の天下統一に影響を与えたことや、江戸幕府の成立と幕藩体制が確立したことを中心に、近世の日本について学習を進めてきた。

育成を目指す資質・能力のうち【知識・技能】【思考力・判断力・表現力等】については、教科論3（1）に示した「批判的思考力を高める学習プロセス」を単元だけでなく単位時間にも位置づけ課題解決学習を進めてきた。『中学校学習指導要領解説社会編（以下、『解説』）』に示された社会的事象の歴史的な見方・考え方を学習課題に組み込み、「天下統一をめざした織田信長と豊臣秀吉には、どんな政策のちがいがあろう？（比較に関わる視点）」や「徳川家康が行った政策のうち、江戸時代が260年続いた理由として最もあてはまるものはどれだろう？（事象相互のつながりに関わる視点）」と設定し、学習を進めてきた。今後、時系列に関わる視点や推移に関わる視点など他の見方・考え方を働かせることができるように工夫していきたい。【主体的に学習に取り組む態度】については、社会科だけでなく総合的な学習の時間など他教科を含む学習の成果として、級友の話をよく聴くこと（＝傾聴）が学びを深める上で必要不可欠なことや、建設的に意見を述べていくことの良さを実感している生徒が増えてきた。今後は話し方について、聞き手の反応を確認したりポイントをしばったり考えを伝えるということ意識させて指導していきたい。これまでの授業では教科論2（2）に示した**社会参画を志向する段階の第2段階（意思決定する）**までを経験している。

社会科の授業アンケートや日常の授業の様子を見ると、歴史的分野の学習について興味関心の高い生徒が多くいる一方で、過去を学ぶことの意義を見出しにくく地理的分野に比べて興味関心の持てない生徒も見受けられる。また教科書に記載してある歴史的な事象に比べ、自分たちが住んでいる地域の歴史についての認識が低いのが現状である。これらの課題を改善するために身近な地域の学習を小単元の学習に組み込んでいく。身近な地域の学習について『解説』には、『「比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながり」などの視点に着目して、歴史を追究する方法そのものを学ぶことができる有効な機会』とある。本小単元では城下町として栄えた盛岡市はもちろん、岩手県の歴史を計画的に小単元に組み込み、教科書に記載してある幕府中心の歴史との比較や関連を考えさせたり、現在とのつながりを考えさせたりすることで、課題の改善を図りたい。

（2）教材観

本小単元は、『解説』に示された歴史的分野の大項目Bを構成する中項目（3）近世の日本の中の（ウ）産業の発達と町人文化、（エ）幕府の政治の展開に、大項目A（2）身近な地域の歴史を関わらせて学習するものである。この小単元では主に17世紀半ばから19世紀初めまでの江戸時代について学習し、その中で産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、町人文化が都市を中心に形成されたことや各地方の生活文化が生まれたこと、また社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりを見せたことを理解させる。

本小単元について『小学校学習指導要領解説社会編』には、小学校第6学年の内容（1）オに「キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一、江戸幕府の始まり、参勤交代、鎖国について調べ、戦国の世が統一され、身分制度が確立し武士による政治が安定したことが分かること」、カに「歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学について調べ、町人の文化が栄え新しい学問が起こったことが分かること」とあり、人物の働きや代表的な文化遺産を中心として学習してきている。

また中央教育審議会教育課程部会社会・地理歴史・公民ワーキンググループ（2016）は、高等学校地理歴史科に新必修科目として設置される「歴史総合」について、「世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する科目」としている。

小学校の学習の繰り返しにならないように扱う歴史的事象に軽重をつけるとともに、諸資料から歴史に関する情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる学習や、自分の考えを論理的に説明したり議論したりする学習を積み重ねていきたい。

（3）学びの本質に迫る指導とその評価について

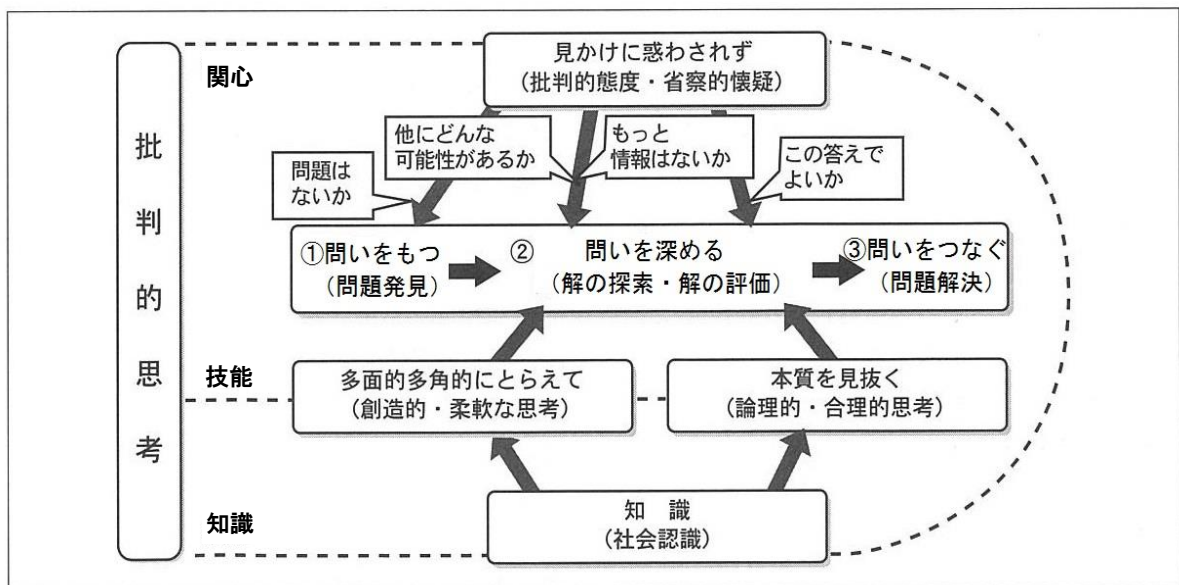
本校社会科では「批判的思考力を高め、社会参画の意識をもつ」ことを学びの本質とし、次の2つの視点から迫っていく。なお本小単元は学習内容のまとまりで大きく2つに分けており、それぞれのまとまりをユニット1、2と表記している。

指導の視点1 批判的思考力を高める学習プロセスの工夫

「批判的思考力を高める学習プロセス」を本小単元に位置付けると、下に示す【図】および【表】中にある「①問いをもつ」段階は各ユニットの最初の時間である（小単元の中の1時間目、4時間目）。ここで各ユニットを貫く学習課題を設定する。「②問いを深める」段階は小単元の2、3時間目と5～7時間目で、江戸時代の各ユニットを貫く学習課題について追究させる。「③問いをつなぐ」段階は小単元の8、9時間目で、学習成果が転移・応用可能かどうか考えさせる。

本小単元で働かせたい社会的事象の歴史的な見方・考え方は、推移に関わる視点と事象相互のつながりに関わる視点である。前者はユニット1の学習課題に、後者はユニット2の学習課題に組み込むことで働かせていく。

【図 批判的思考のプロセス】 ※道田泰司（2001）を基に作成



【表 批判的思考力を高める具体的な学習活動】

① 問いをもつ	② 問いを深める	③ 問いをつなぐ
ア 社会的事象を的確にとらえる。 イ 社会的事象相互の関係構造を把握する。 ウ 課題を発見・把握する。 エ 解決の見通しを立てる。	ア 資料を収集し、読み取り、読み取った情報を記述する。 イ 社会的事象の意義や意味を解釈する。 ウ 社会的事象間の関連を説明する。 エ 自分の意見をまとめて論述する。	ア 全体構造を把握する。 イ 学習成果が転移・応用可能かどうか考える。 ウ 他単元、他分野、他教科や実社会とのかかわりを見いだす。

指導の視点2 追究意欲を喚起する教材発掘・開発

豊臣秀吉の全国統一の完成後、南部信直とその子利直によって建設が決まった盛岡城は、中津川と北上川の氾濫や洪水を乗り越え、1633年に完成している。その間、盛岡の街づくりも進められ、中津川に上の橋（1609年）、中の橋（1611年）、下の橋（1612年）が架けられ市街地を広げるとともに、有力寺院を市内に移すことで宗教面からも南部氏支配の確立を図ることで、城下町盛岡の骨格ができあがった。さらに三代藩主重直は岩手郡から紫波郡に広がる畑作地帯を水田地帯に変えようという釜津田甚六の計画を発展させ、雫石川からトンネルを掘って水を流す鹿妻穴関の拡張工事を進め、米の生産量を増大させた。藩では農民の納める年貢米や特産物を集めて大阪や江戸の商人を通して売りさばいてお金を換えたり、南部馬や三陸の海産物、金・銅・鉄などの鉱産物に課税したりして利益を得ていた。また現在、伝統的工芸品に指定されている南部鉄器の鑄造が始まったり、一日三食の食事や年中行事が行われるようになったり、江戸時代は、我々にとってもつながりの深い時代といえる。

しかしながら江戸時代の平均寿命は男女ともに40歳前半とされ、特に生まれた子どもの半分は5歳までに亡くなるなど、戦乱はなくとも生き延びるのに困難な時代であった。その要因の一つに自然災害への備えが弱かったことがあげられる。田家（2013）によれば「17世紀前半の気候は温暖な傾向を示して」おり、「自然環境の好転が東北地方の新田開発を後押し」したが、1690年代に入ると「北半球各地で極めて寒い日が続き」、東北各地では冷害による元禄の飢饉が起こっている。その後起こった大規模な飢饉の原因も、ほとんどが冷害や冷夏・長雨によって引き起こされたもの（享保の飢饉はセジロウソカの大量発生が原因）であることが分かっている。しかし田家（2013）は飢饉の人為的災害としての側面を指摘している。17世紀前半は温暖だったがために、人々は「冷害対策への配慮が薄くなり、天候が良ければ収穫量が多い上に美味である」品種の植え付けに傾いていった。東北地方にとって米は江戸や大阪に販売する主力商品であったために、冷害対策よりも売れる米作りを優先したのである。また細井（2002）も「盛岡北部は水稻経営の限界といってもよい地帯に属していたにもかかわらず、盛岡藩が財政基盤を水稻生産力に求めていたのは、幕藩社会が石高制に基づいていたから」であり、「凶作時に大名領ごとに行われた穀留政策が他領の飢饉に一層の拍車をかけた」と指摘している。さらに盛岡の城下では火事や川の氾濫も頻発し多くの犠牲者を出すとともに、岩手山の火山噴火も度々記録されている。

このような困難を乗り越えるために当時の人々がどのような生活をしてきたのか、生徒にその一端でも感じさせることができるように、地域に残る文化財や諸資料を活用し授業を展開したい。さらに身近な地域である盛岡における具体的な歴史に関わる事象から、江戸時代の様子を考察できるようにしたい。

評価については、次に示す2つの視点から行っていく。

評価の視点1 社会的な見方・考え方の深まりの自覚化～「学びの本質に迫るための評価」～

社会的な見方・考え方の深まりを自覚化させるために、本小単元を構成する2つのユニットの最後の時間（小単元の中の3時間目と7時間目）と9時間目に評価活動を位置付ける。生徒が作成したレポート等について相互評価をさせたり、学級で評価を共有してルーブリックに整理させたり、生徒を積極的に評価活動に関わらせていくことで、生徒のメタ認知能力を育成していく。

さらに生徒が作成したレポート等について教師がコメントでフィードバックを行うことで、生徒に社会的な見方・考え方の深まりを自覚化させていく。

評価の視点2 表現力に着目したパフォーマンス課題 ～「学びの本質に迫ったかを見とる評価」～

評価問題のみでの見とりが難しい【思考力・判断力・表現力等】について、本小単元ではパフォーマンス課題に取り組み、評価を行う。ユニット2の最初の時間（小単元の4時間目）に、パフォーマンス課題（次頁【資料】）を提示し、ある程度の基準を示す。基準をあえて厳密に設定しないことで、生徒とともに基準を作り、それを共有する余裕を残したい。生徒は本小単元の8時間目のレポート作成を目指し、学習を積み重ねていく。レポートを作成するにあたっては、これまでの学習を生かすために教科書やワークシートなどは全て使用して良いこととする。

【資料 「近世の日本」におけるパフォーマンス課題】

徳川の世となり戦乱はなくなったが、干ばつや風水害、病虫害、霜など、自然との戦いは壮絶を極めた。稲の収穫が昨年比で5割以上減少する凶作が周期的に発生し、なかには飢饉に発展して、数千～数万人単位で餓死者を出すこともあった。一般に飢饉は30年から50年の間に1回起こっていたが、盛岡藩ではおよそ4年に一度の割合で凶作に、16年に一度の割合で飢饉になり、これは発生頻度で国内最高を示し、それだけ多くの餓死者を出していた。年貢として稲を納められなくなった藩は当然財政難となり、その状態が何年も続いた。さらに幕府に命じられた土木工事の費用や、18世紀末から始まった蝦夷地警備の費用などが財政を圧迫し、盛岡藩の財政は行き詰まっていた。

そんな中、盛岡藩を大飢饉が襲う。それは後に「盛岡藩四大飢饉」の一つに数えられるほどの歴史的な大凶作・大飢饉であった。もはや儉約令では対処できず、藩として生き残れるかどうかの瀬戸際に追い詰められたのである。

そこで盛岡藩の藩主は、老中であるあなたに「財政を立て直すための政策を考えよ」と命令を下した。あなたを含めた4人の老中は盛岡城に集まり、政策を考えて藩主に提案せねばならない。藩の財政を立て直し、盛岡藩が存続できるかどうかは、あなたに託された！

3 単元の指導計画および評価計画

(1) 育成を目指す資質・能力

【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力等】

- ① 戦乱がなくなったことが人々の生活に与えた影響や、幕府や盛岡藩の政治の行き詰まりについて、多面的・多角的に考察したり、複数の立場や意見を踏まえて構想（選択・判断）したりする力（批判的思考力）。
- ② 自らの振り返りや仲間の発表、教師によるフィードバックによって自分自身が身に付けた社会的な見方・考え方の広がりや深まりを実感し、他の社会的事象を追究する際に、それを活用しようとする力。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ③ 他者の考えを聴く際には耳・目・心で聴き（傾聴）、近世の改革について話し合ったり、協働して課題を解決しようとしたりする態度。
- ④ 近世の社会的事象に関心を持ち、現代の生活への影響や関連性について意欲的に追究しようとする意識（社会参画意識）。

(2) 指導目標

産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目し、事象を相互に関連付けるなどして近世の社会の変化を多面的・多角的に考察し、資料等を用いて自分の考えを論理的に説明させる。

(3) 評価規準（○学びの本質に迫るための評価 ●学びの本質に迫ったかを見とる評価）

社会的事象についての 知識・技能	社会的事象についての 思考・判断・表現	社会的事象に 主体的に関わろうとする態度
<p>○ 産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解することができる。</p> <p>○ 社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりを見せたことを理解することができる。</p>	<p>○● 産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目し、事象を相互に関連付けるなどして近世の社会の変化を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を論理的に説明することができる。</p>	<p>● 近世の社会の変化について学習課題を意欲的に追究しようとする。</p>

(4) 指導と評価の計画 (○学びの本質に迫るための評価 ●学びの本質に迫ったかを見とる評価)

時	学習課題 ・学習内容 (身近な地域の歴史) ◆指導上の留意点	評価規準	評価の観点		
			知技	思考	態度
1	<ul style="list-style-type: none"> 室町時代や安土桃山時代の人々の生活の様子 (ア 兵農分離による身分や職業の固定化, イ 都市の成長と自治, ウ 多くの戦乱) を想起させるとともに, 「(江戸時代は) 戦乱のない平和な時代」という教科書の記述に注目させる。 ユニット1の学習課題を設定する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">戦乱がなくなり, 人々の生活はどう変わったのだろうか?</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> 上記アについて, 「城下盛岡町名由来記」から, いくつかの町名の由来を調べ, 当時の産業と関わりがあることを理解する。 それらの町名が全国に複数存在することから, 全国的に産業が発達した時代であったことに気付く。 <p>◆振り返りの観点を【知識・技能】とし, 本時の学習を通して分かったこと (または分からなかったこと) を記入する。</p>	産業や諸産業の発達を基に, 各地方の生活文化が生まれたことを理解することができる。	○		
2	<ul style="list-style-type: none"> 上記イについて, 「近世の都市のようす」から, 江戸, 大坂, 京都が三都と呼ばれ大きく発展していたことを理解する。 「盛岡城下図」を基に, 当時の盛岡の町割や街道の整備, 治水事業と水運について調べ, 都市の発展と交通路の整備に関わりがあることを理解する。 「近世の江戸」や「近世の大坂」の地図を見て, 理解を深める。 <p>◆振り返りの観点を【知識・技能】とし, 本時の学習を通して分かったこと (または分からなかったこと) を記入する。</p>	交通の発達を基に, 町人文化が江戸や大阪などの都市を中心に形成されたことを理解することができる。	○		
	<ul style="list-style-type: none"> 徳川綱吉から文治政治が始まったことを理解する。 上記イ, ウについて, 「元禄の学問と文化」を調べ, 安土桃山時代までの文化と比較することで, その特色を明らかにする。 	教育の普及と文化の広がりを基に, 町人文化が上方を中心に形成されたことを理解することができる。	○		
3	<ul style="list-style-type: none"> ユニット1の学習課題についてまとめを記述する。 記述内容を相互に見合い, グループの中で評価する。 評価が高かったものについて, その要素は何か考え発表する。 教師が発言を整理し助言を加えることでルーブリックを整理する。 <p>◆人々の生活が様々な面で変わったこと (多面的な視点) に気付かせる。次の4つの視点に整理し, そのうち3つの視点から具体的に記述してあるものをB評価とする (①農業と諸産業の発達, ②交通路の発展, ③都市 (三都) の発展, ④上方の町人中心の文化)。</p>		○		○
	事後	教師は生徒のまとめを見て, 特に多面的な視点に注目してコメントでフィードバックする。			
4	<ul style="list-style-type: none"> 「打ちこわしの様子」と「百姓一揆・打ちこわしの発生件数」から人々が不満を抱えていたことを把握する。 「盛岡郷土略年表」を基に盛岡藩が, 当時の日本で最も飢饉が多く慢性的な財政難を抱えていたことなど, 当時の状況を理解する。 ユニット2の学習課題を設定する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">盛岡藩の財政を立て直すための政策を提案しよう</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> 徳川吉宗が行った享保の改革について具体的な内容を調べる。 都市と農村のようすを知り, 判断材料の1つとする。 <p>◆振り返りの観点を【知識・技能】とし, 本時の学習内容のうち盛岡藩の財政の立て直しに使えそうなもの (または使えなさそうなもの) を理由とともに記入する。</p>	社会の変動や享保の改革を基に, 幕府の政治が次第に行き詰まりを見せたことを理解することができる。	○		

時	学習課題 ・ 学習内容 (身近な地域の歴史) ◆ 指導上の留意点	評価規準	評価の観点		
			知技	思考	態度
5	<ul style="list-style-type: none"> 田沼意次と松平定信の改革について具体的な内容を調べる。 「盛岡領内陸上・海上交通関係図」等の資料を基に、盛岡藩が陸路や海路で大都市とつながり、米や俵物など流通させていたことを理解する。 外国船の接近など当時の社会情勢を知る。 <p>◆ 振り返りの観点を【知識・技能】とし、本時の学習内容のうち盛岡藩の財政の立て直しに使えるもの(または使えなさそうなもの)を理由とともに記入する。</p>	<p>社会の変動や欧米諸国の接近、田沼の政治、寛政の改革を基に、幕府の政治が次第に行き詰まりを見せたことを理解することができる。</p>	○		
6	<ul style="list-style-type: none"> 水野忠邦の改革について具体的な内容を調べる。 「盛岡藩で出された儉約令」を基に藩の政治の行き詰まりを理解する 国の内外からの危機について、高野長英と大塩平八郎の動きを取り上げ、江戸時代末期のようすを捉えさせる。 <p>◆ 振り返りの観点を【知識・技能】とし、本時の学習内容のうち盛岡藩の財政の立て直しに使えるもの(または使えなさそうなもの)を理由とともに記入する。</p>	<p>大塩の乱や欧米諸国の接近、天保の改革を基に、幕府の政治が次第に行き詰まりを見せたことを理解することができる。</p>	○		
7	<ul style="list-style-type: none"> 社会の変化の中で発展した「化政文化」を調べ、元禄文化と比較することで、その特色を明らかにする。 	<p>新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりを見せたことを理解することができる。</p>	○		
	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習の振り返りをまとめる。 記述内容を相互に見合い、グループの中で評価する。 評価が高かったものについて、その要素は何か考え発表する。 教師が発言を整理し助言を加えることでルーブリックを整理する。 <p>◆ 身分によって政策に対する評価や捉え方が異なること(多角的な視点)に気付かせる。次のうち2つ以上の視点から具体的に記述してあるものをB評価とする(①武士、②町人、③百姓、④えた・ひにん)</p>		○		○
事後	教師は生徒の振り返りを見て、特に多角的な視点に注目してコメントでフィードバックする。				
8	<ul style="list-style-type: none"> ユニット2の学習課題について、自分の考えを記述する。 <p>◆ 次の視点が含まれているものを総合的に判断してB評価とする。(①これまでの学習をもとに考察し、根拠とともに提案している、②当時の歴史的な背景をふまえている、③論理的にまとめている)。</p>	<p>盛岡藩の財政を立て直すための政策を基に資料を関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を論理的に説明することができる。</p>		●	●
9	<ul style="list-style-type: none"> 記述内容を相互に見合い、グループの中で評価する。 評価が高かったものについて、その要素は何か考え発表する。 教師が発言を整理し助言を加えることでルーブリックを整理する。 	<p>盛岡藩の財政を立て直すための政策について、意欲的に追究し、課題を解決しようとしている。</p>		○	
	<p>本時</p> <ul style="list-style-type: none"> 「盛岡郷土略年表」を調べ、実際に行われた政策について理解する。 「盛岡郷土略年表」と「幕府への人口の報告」の資料から新たな課題に気づき、幕藩体制について理解を深める。 <p>◆ 振り返りの視点は「態度」とし、「これまでの学習で学んだことのうち、次の学習に生かしたいこと」を問う。</p>	<p>本小単元の学習を通して学んだことを、次の学習に生かそうとしている。</p>		○	○
事後	教師は生徒の振り返りを見て、コメントでフィードバックする。				

4 本時について

(1) 主題 盛岡藩の政治改革

(2) 指導目標

盛岡藩の財政を立て直すための政策について、交流と評価活動を通して社会的な見方・考え方を広げるとともに、資料を関連付けて追究、考察させることで次の単元に向かう意欲を高めさせる。

(3) 評価規準

- ・盛岡藩の財政を立て直すための政策を基に資料を関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を論理的に説明することができる。【社会的事象についての思考・判断・表現】
- ・本小単元の学習を通して学んだことを、次の学習に生かそうとしている。【社会的事象に主体的に関わろうとする態度】

(4) 指導と評価の構想

生徒は前時に盛岡藩の財政を立て直すための政策を OPP (One Page Portfolio) に記述することで、本小単元の課題について自分なりのまとめを行っている。そのまとめを受けて行う本時は、自分で考えた提案を基に考察することで幕府の政治が次第に行き詰まりを見せたことを実感させ、その後の大政奉還や明治維新へのつながりを感じさせる時間としたい。またお互いの提案を相互評価することで、自分の提案にはなかった視点に気付かせ、今後の学習につなげていきたい。以上のように本時は、今後の学習内容や学び方とのつながりを意図して構想した時間である。

授業の導入では前時に作成した「盛岡藩の財政を立て直すための政策」を実際に提案することを伝え、グループ活動に入る。

展開ではグループで行った提案のうち、既に示された評価基準以外の視点から書かれているレポートを取り上げ、教師とともにその視点を価値付けることで、評価基準を共有、整理していく。その後「盛岡郷土略年表」を基に、実際に盛岡藩がとった政策を調べて検証させる。その中で天明の飢饉（1783年）の死者数（およそ 70,000 人）に着目させるとともに「ある時期の盛岡藩の人口の推移」の資料を配付し、それを読み取らせる。2つの資料の数字に、あまりにも大きな開きがある（年表から読み取れる天明の飢饉の死者数 70,000 人に対して、人口の推移から読み取れる人数の減少は 1,500 人程度）ことから、新たな課題を持たせる。

「ある時期の盛岡藩の人口の推移」が、実は盛岡藩が幕府に対して行った報告であったことを伝え、なぜ嘘（と推察される）の報告をしたのか考えさせる。さらにそのような当時の状況をどう思うかと問うことで、盛岡藩の苦しさや、その中で何とか藩を立ち直らせようと政策を打ち出したこと、幕藩体制による支配体制の成功など、多様な解釈を引き出したい。

終結では「本単元を通して考えたこと」を視点に振り返りをさせる。困難な時代を何とか生き抜いた人々の存在と、その人々

(5) 本時の展開（次ページ）

5 参考文献

- 吉田義昭・及川和哉（1983）『図説盛岡四百年 江戸時代編』郷土文化研究会
細井計（2002）『街道の日本史 6 南部と奥州道中』吉川弘文館
田家康（2013）『気候で読み解く日本の歴史 異常気象との攻防 1400 年』日本経済新聞出版社
もりおか歴史文化館活性化グループ（2017）『盛岡南部家の生き方 第2部』
もりおか歴史文化館活性化グループ（2018）『盛岡南部家の生き方 第3部』
細井計（1995）『図説 岩手県の歴史』河出書房新社
森嘉兵衛（1983）『岩手をつくる人々 古代－近世編 中巻・下巻』法政大学出版局
長岡高人（1991）『岩手県市町村地域史シリーズ 1 盛岡市の歴史 上』熊谷印刷出版部
倉地克直（2016）『江戸の災害史 徳川日本の経験に学ぶ』中公新書
佐藤竜一（2006）『シリーズ藩物語 盛岡藩』
加藤章・高橋知己・藤井茂・八木光則（2016）『よくわかる盛岡の歴史』東京書籍

(5) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等	時間 (分)	指導上の留意点および評価 ・学びの本質に関わる指導の手立て等 ○学びの本質に迫るための評価 ●学びの本質に迫ったかを見とる評価
導入	1 学習課題の設定 ・前時に取り組んだワークシートから、課題を想起させる	2	・「問いをもつ」ウ 前時の取り組みから課題を把握する
盛岡藩の財政を立て直すための政策を提案しよう			
展開	<p>2 個人の考察の交流与評価活動（4人グループ） ・前時に考察した「盛岡藩の財政を立て直すための提案」を基に話し合う。 ・グループ内で評価が高かったものを発表し、その要因は何か考える ・教師が発言を整理し、助言を加えることでループリックを整理する</p> <p>3 資料の検討（結果の見通し） ・予想を検証するためにどんな資料が必要か考える</p> <p>4 資料の読み取り（個人） ・「盛岡郷土略年表」を調べて、饑対策や藩政改革に関する情報を読み取り、記述する</p> <p>5 読み取った内容のまとめと考察 ・生徒の発言を基に、盛岡藩のとした政策についてまとめる</p> <p>6 新たな課題に気付く ・「盛岡郷土略年表」と「ある時期の盛岡藩の人口の推移」を比較して新たな課題に気付く、その解釈を通して幕藩体制への理解を深める。</p>	<p>17</p> <p>2</p> <p>5</p> <p>16</p>	<p>○相互評価やループリックの整理を通して生徒のメタ認知能力を高める</p> <p>・「問いを深める」ア 資料を読み取り、読み取った情報を記述する</p> <p>・「問いをつなぐ」ウ 他単元との関わりを見いだす</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>盛岡藩の財政を立て直すための政策を基に資料を関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を論理的に説明することができる。 【社会的事象についての思考・判断・表現】</p> </div>
終結	<p>7 振り返り ・振り返りの視点は「態度」とし、「本小単元で学んだことのうち、次の学習に生かそうと思うこと」を記述する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>生徒の記述例) ①政策を考えたり、それを交流したりすることで○○という（新しい）視点が大切だと気付くことができました。次回レポートを作成する際に生かしたい。 ②政策がうまくいった藩が力をつけて倒幕の中心になるということが実感できた。</p> </div>	10	<p>・「問いをつなぐ」ウ 他単元との関わりを見いだす</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本小単元の学習を通して学んだことを、次の学習に生かそうとしている。【社会的事象に主体的に関わりようとする態度】</p> </div>

